

日仏民間航空機産業協力に関するワークショップ開催

経済産業省（METI）製造産業局とフランス航空局（DGAC）の主催による主題のワークショップが12月19日開催された。その概要について報告する。



日仏民間航空機産業協力ワーキンググループの会議参加者
（左から4人目がDGACグランディル局長、5人目がMETI宮川局長）

1. はじめに

日本とフランスの間で超音速機技術に関する日仏共同研究について、2005年6月14日、日本航空宇宙工業会（SJAC）とフランス航空宇宙工業会（GIFAS）が枠組み合意に調印し、その研究が始まった。以来約9年にわたり、ワークショップを通算8回開催し、その技術成果を発表しあった。このプログラムは超音速機の機体仕様検討を含む耐熱複合材、複合材成形法、ジェット騒音伝搬やエンジン騒音の分野で共同研究がすすめられ、人的な交流も含め所定の成果が得られ、平成25年度で終了する予定である。

一方、昨年パリエアショウの期間中の平成

25年6月18日に、経済産業省（METI）菅原製造局産業長とフランス航空局（DGAC）グランディル局長の間で超音速機に限らず広く民間航空機全体をカバーして意見交換を行う日仏民間航空機産業協力の覚書が交わされた。これを受けて、宮川局長およびグランディル局長出席のもと第一回のワークショップが東京にて開催された。

2. ワークショップ概要

METI第一特別会議室にて11時過ぎから18時近くまで開催され、政府、企業、団体などから日仏双方で100名を超える参加者が参加した。フランス側から5社、日本側から12社（一

表1 プレゼンテーションを行った企業

フランス側		日本側			
1	ユーロコプター	1	菊池歯車&スネクマ	7	住友精密工業
2	エアバス&EADS イノベーションワークス	2	横河電気&タレス	8	日本航空電子工業
3	タレス	3	東京航空計器	9	JASPA
4	スネクマ	4	島津製作所	10	日本エアロフォージ
5	ターボメカ	5	カヤバ	11	新日鉄住金
	—	6	多摩川精密販売	12	豊田自動織機

部合同発表あり、表1参照)が、各社の製品や得意とする分野などの紹介を相互に20分程度行い、フランス側から発表していない内容や関連した案件などの質疑応答も出され、フランス企業から日本の技術への関心の高さが伺えた。また、昼食はbuffeスタイルで行われ、参加者がそれぞれ興味のある方々と交流を行いビジネスのチャンスの拡大に活用していた。

最後にDGACグランディル局長から、今回のワークショップは良く準備された内容で、有意義であり、次回の会合はパリで開催したい、と会議の継続を提案した。これを受けてMETI宮川局長からパリで2015年秋頃に行くことを了解し、準備を進めて行くことを表明した。

3. 政府間会議（ワーキンググループ）

ワークショップに先立ちワーキンググループと称する両政府間会議が開催され、その中でSJACおよびGIFASからそれぞれ政府への要望や提言がなされた。

SJACから、これまでの9年にわたる超音速

機技術に関する日仏共同研究の実行に当たり両政府の支援に感謝を表明した。今後の日仏産業間における交流については、METIの国際共同開発に関する基本的な指針に示される①装備品の開発力向上、コスト削減や生産増加への対応など個別分野での強化、②素材メーカーと構造部材メーカーの協力による先進材料開発およびその実用化、③エアラインの整備技術、ノウハウの活用など関係企業間の連携や協業などの支援を要請した。

一方、GIFASからは、国際協力をさらに発展させる手法として今回のような対話は大切である。革新技術にはコストがかかることから新興国との連携を模索しているが、困難な状態にある。パートナーシップはバランスの取れたものが大切であるが、同じような技術レベルにある日仏両国の協力関係はまだ未達成の状況だ。高度なレベルまで引き上げて行くことが可能で、機体、ヘリコプタ、航空管制(ATM)、超音速機など多方面で協力できる分野がある。GIFASは全面的な協力をしたい、と述べた。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際部長 板原 寛治〕